

越行

えつきょう



旧松葉川村の「銀座」

の人は、
が暮らし
ている静
かな集落
である。地
区の氏神
さまは「池
野神社」で

えつきょうと読む。越行は小字名で、大字は七里甲である。先月号で紹介した作屋地区の、四万十川を挟んだちようど対岸にあたる。県道19号(窪川船戸線)ができるまでは、対岸を走る県道322号がメイン街道であり、市生原や、小野川、影山といった地区から対岸の街道に出るためには、山を越えてこの地に行かねばならなかったことから「越えて行くところ↓越行」となったということである。

窪川船戸線に沿ったこの地域は、かつては「松葉川村の銀座だった」というくらい、賑やかなところであつたらしい。現在の松葉川郵便局のある一帯には、「無いのは呉服屋さんだけ」というほどの商店数があり、「ここで揃わないものは無かった」と、当時を知る人が語ってくれた。松葉川村の役場もここにあつたという。また、作屋へ渡る通称羽子板橋には、昭和32年頃まで、木材輸送用の軌道が走っていて、下呉地の貯木場へと運んでいた。

現在の越行は、35世帯、85人ほどの人たちが暮らしている静かな集落である。地区の氏神さまは「池野神社」で



軌道が走っていた頃

元は水速女神社と
いった。
江戸末期のこと
である。大水が出
たある日、地区の
四万十川近くの池
で魚をすくってい
ると、魚ではなく
きれいな石をす
くった。場所を変えて魚をすくつ
てみたら、不思議なことに場所を
変えたにもかかわらず、まったく
同じ石をすくってしまった。祈祷
師からこれを水速女神社のご神体
とするようにといわれ、明治元年、
池から来た神社ということで「池
野神社」と改称したという。



池野神社

高齡化が進んで地区の伝統行事が消え行くなか、昔より簡略化されたとはいえ、お伊勢講やお伊勢講や左義長といわれるどんと焼きなどが伝承されている。また、10年ほど前までは、毎年お堂の周辺で盆踊りも行われていた。

「賑やかだった頃を知る人が少なくなりました」と話してくださった地区の方が「川沿いには草競馬もあったのよ」と教えてくださった。当時の活気はよほどであつたにちがいない。

町のうごき

(10月31日)	人口	前月比	出生	死亡	転入	転出
男	8,879	-9	男 6	15	11	11
女	10,001	-1	女 6	5	11	13
計	18,880	-10	計 12	20	22	24
世帯数	8,772	-8	(9月中の届出)			

四万十川の
水質状況

	適正值(mg/l)	11月6日
リン酸	≤ 5.0	測定値以下
硝酸	≤ 0.5	0.486
アンモニウム	≤ 5.0	測定値以下
アニオン活性剤	≤ 1.0	0.400
化学的酸素消費量	≤ 10.0	2.810

調査：大正(吾川)
資料：四万十高校自然環境部

● 四万十町ホームページアドレス <http://www.town.shimanto.lg.jp/> ●

※ 広報「四万十町通信」はホームページでも、ご覧いただけます。(pdfファイル)